



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2022～2023 年度 高山中央 RC 会長テーマ

イマジン ⇒ アクション ～止まった時間を動かそう！～



◆会長 中田 学 ◆幹事 二木 公太郎 ◆会報委員長 西 美紀 ◆会報担当 足立 常孝

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1311 回	54 名	54 名	42 名	——	77.78%
前々回 1309 回	54 名	54 名	36 名	5 名	75.93%

- 点 鐘
- ロータリーソング
- 四つのテスト
- 会長の時間

奉仕の理想

会長 中田 学



こんにちは！

会長の時間です。先週は、新年家族例会ということで、伊藤委員長と委員会の皆さんに、お骨折りいただき、実施しました。奥様、お子様にも多数ご参加いただき、コロナ禍で忘れていた祭りの縁日風の設えで、私たちが童心に戻って、楽しく懇親を図ることができました。ありがとうございました。

今日は、職業奉仕月間です。「職業奉仕」、日本のロータリーでは、これが基本理念として、時間を重ねる中で、いろいろな解釈がされながら、大切に育まれてきた重要なものだと思います。

高山中央ロータリークラブは、長期計画として、すなわち、ずっと持ち続けていく根源的な理念、クラブの屋台骨として、「職業奉仕に徹する」ということにしています。

昨年 11 月の地区の職業奉仕委員会研修セミナーで、高橋ガバナーは、「職業奉仕は日本のロータリーの心と原点であり、ロータリーの中核的価値観であり、大切な理念である」と言われています。

また、セミナーでいただいた資料に、松下幸之助氏は、「自分の仕事は社会にやらせてもらっているもので、社会に奉仕貢献することによってのみ存在するのであり、そうでなければ、この仕事は全く存在価値がないのだという認識をしっかりと持たなくてはならないということである。そういう自分の仕事の意義の自覚に立って、その大切な仕事に、謙虚に誠実に、そして熱心に取り組み、世の中の求めに精一杯応えていくことが、職業奉仕として第一に考

えられなくてはならない。」と語っています。そして、昨年 1 1 月の例会では、地区委員の北川さんから、「職業奉仕とは、自分のビジネスや専門を通して他者、すなわち、顧客・従業員・競合相手・仕入れ先の 4 者を、4 つのテストで自分自身をチェックしながら、助けていくことである。」というお話を伺いました。現在、上部団体の国際ロータリーは、一般的なボランティア団体としての活動をドンドンしていこうとしていると聞いています。シカゴでロータリーが発足した当時の、ビジネスを取り巻く混乱した社会状況と、今現在の社会課題は違うので、時代時代で役割が変わっていくことも必要な事だと思えますが、それでも、やはり、起源とか、ルーツとか、発足時の根源的な理念があって、今の活動がある、それは、ずっと繋がっている、そして繋がりに生かされているということは忘れてはいけないことだと思っています。

本日の例会は、職業奉仕委員会のご担当ということで、三枝委員長、よろしくお祈りします。

「職業奉仕」、シンプルな言葉ですが、先ほど言ったように、捉え方や理解も多様で、とても難解なものだと思います。それでも、本日また、職業奉仕について、いろいろなお話を伺って、「職業奉仕」の捉え方や理解を、より深く厚いものにしていただけることを願っております。

最後になりますが、まだまだ、コロナ、インフルエンザなど、感染症対策を怠らず、この寒い時期、体調管理にお努めいただきますことをお願いして会長の時間とします。

ありがとうございました。

● 幹事報告 幹事 二木 公太郎

- ◎ R I 本部より
 - ・ザ・ロータリアン誌
- ◎ 国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より
 - ・2023 年会長エレクト



- 研修セミナーのご案内
日時：3月26日(日)
10:00~19:00
会場：名鉄グランドホテル
登録料：18,000円
- ・11月・12月クラブ会員増強報告書
- ・バギオだより
- ・ウイズコロナに於ける例会等クラブ運営のアンケートの結果報告
- ・2021-22年度バナー表彰
「Every Rotarian, Every Year」クラブ
および100%ロータリー財団寄付クラブ
- ・2022年手続き要覧

- ロータリー米山記念奨学会より
 - ・米山功労者感謝状 第4回マルチプル
清水 幸平 殿
 - ・ハイライトよねやま 273・274
- 濃飛グループガバナー補佐より
 - ・濃飛グループ I M の報告書
- 多治見リバーサイドロータリークラブより
 - ・多治見西高 I A C 国際文化交流事業への米山記念奨学生協力のお祝い
日時：3月25日(土) 8:45~16:30
会場：多治見市 永保寺

- 高山ロータリークラブより
 - ・例会変更のお知らせ
2月9日(木) 定款により休会
2月23日(木) 法定休日により休会

- ロータリーの友事務所より
 - ・電子版パスワード変更のお知らせ
(半期ごとに変更)
 - *パスワードを知りたい方は事務局にお問い合わせ下さい。

<年賀状>

- ・(有)銀風
- ・(有)第一工芸
- ・(株)オクトン
- ・(有)リブロ
- ・高山青年会議所

●ロータリー米山功労者表彰 清水 幸平



●職業奉仕委員会 委員長 三枝 祥一



<会員スピーチ>

「私の職業」

田中 雅昭

皆さんこんにちは。本日は「私の職業」についての卓話依頼が御座いましたので、述べさせていただきます。まずは何はともあれ「今日は何の日」からお話いたします。



1902年(明治35年)日露戦争に備えた予行演習として、日本陸軍第8師団の歩兵第5連隊は青森から八甲田山(田代元湯)に向け雪中行軍が行われ、指導部の無謀さから軽装のまま行軍を開始したため、猛吹雪の中で遭難し210名中199名の死者を出すという事故がありました。そして1904年には日露戦争が発覚しました。今から121年前の今日の出来事です。

数ある組織や職業がある中、様々な状況と環境下のもと上層部の命令には絶対的服従が時として存在することは、過去の事だけではなく、今なおこの時代に於いても否定できない事も多々あるのではないのでしょうか。世界の平和と安寧が訪れるのは、いつになるのでしょうか。さて私は名古屋の大学を卒業後、3年間名古屋の企業に就職し主に地下鉄新築工事に従事してきました。地下鉄工事と言っても様々な業種があり、私はシールド工法のセグメント設置に伴う、止水工事を始めセメントミルク注入工事等に従事し、ほぼ地下空間で正しく日の当たらない、グレーな作業を通じて今日ある自分の職業精神

の骨格が形成されたと感じております。朝礼が終わると弁当持参で50メートルの立坑螺旋階段を降り、気圧調整室に入り気圧を上げる事で体や耳の調整を行い、トンネル内の扉が開くとそこには異次元の作業空間が待っているのです。名古屋市内の堀川の下を掘削するときにはいくら気圧が上げられていても、漏水がすごくてずぶぬれになった記憶が今なお蘇ってきます。中々言葉では表せませんが、普通の精神状態では長くて1週間も頑張れば上出来だと思いましたが。しかし親元を離れここで諦めるわけにはいかないし、のこのこ高山に帰る訳にもいかず、ただ若さゆえの思いとこれ迄苦労して育てて頂いた両親への思いだけが、我慢と言う言葉を自身に飲み込ませたに違いありません。寮へ帰ると隣の部屋では同僚が喚き散らし、壁を強打する音がよく聞こえたのを覚えています。彼は2年で会社を辞めましたが、その後立派に別の会社幹部として成功したと聞き、我ながら安堵した思いが御座いました。そしていよいよ高山へ帰り、第一物産㈱の創業者島卓三さんに面接を受け昭和58年から今日まで42年間防水工事業に従事しています。又16年前には安全検査㈱を設立し、非破壊検査を始めアスベスト含有分析から除去工事に至るまで様々な検査を行い、お客様第一主義にて日々業務に励んでいます。イチブツグループは施主制ではありません。したがって代表取締役は株主総会終了後に臨時取締役会を開き取締役の中から立候補をし、取締役の過半数の承認を得て代表取締役になれるんです。誰でも上に立って経営をしたい人ばかりとは限りませんが、私はこの様な企業に入り、代表取締役として従事させて頂いていることに感謝しています。それは社員やその家族、各取締役全ての皆さんに感謝なのです。そして志事（こころざすこと）を通じてしなければならない事、それは以下の社是・社訓に集約されています。

社是 「心」

働く場は個人主義でもなく全体主義でもない
各人の自覚に基づいた協力精神によって向上させなければならない

社訓

- 1, 仕事は自ら創るべきで、与えられるべきではない。
- 2, 難しい仕事を狙え、そしてこれを成し遂げるところに進歩がある。
- 3, 日頃の研究と努力で、失敗を繰り返すな。
- 4, 計画を持って、綿密な計画により実行すれば、成功疑いなし。
- 5, 常に心のこもった商道を守り、希望ある幸福な人生を送ろう。

私の志事（しごと）は

10代、20代の方は、可愛がられる人に成れ

30代、40代の方は信頼される人に成れ
50代、60代の方は尊敬される人に成れ
70歳を過ぎたら、人生を謳歌せよ
それが志事や！！

創業者・島卓三の言葉より（第一物産㈱）

「私の職業」を集約すると、たとえどんな職業であろうと、可愛がられ・信頼され・尊敬される人となり、社員の為の人財育成を行う事こそが本当の職業であり職業奉仕へと繋がっていくのだと思います。そうすれば必ず自分自身も幸福な人生を送ることは勿論、周りの人々や社会に対して、世界に対しての奉仕活動が出来ると思います。

この社是・社訓で言う、「計画を持って、綿密な計画により実行すれば成功疑いなし」

こそ、あの八甲田山雪中行軍遭難事故に通じるところかもしれません。 ご清聴ありがとうございます。

「私の職業」

我がRCで年に1回実施しております中学生を対象とした「出前講座」に、私の大抵は参加させて頂いていただいておりますが、本日は、自分の職業について話せ、ということですので、毎回出前講座の時に中学生を前にして話させていただいているお話を掻い摘まんで紹介させていただこうと思います。

自分の職業を例にとり、いつも2つのテーマで、話しをするのですが、1つは、「苦手なことを克服するよりも、得意分野を伸ばした方が精神衛生上もいいのか？」ということ、そしてもう1つは、「でも苦手なことを克服しようとしたその努力は無駄にはならないかも」ということです。

自分は27歳の時から家業の仕事場に入りましたが、仕事を始めてしばらくすると、「結構売れない商品があるよな」ということに気が付きました。そこで、これらの商品を売れるようにするにはどうしたらいいのか？ということで、製法をあれこれ考えたり、材料の特性などの研究をしたり、パッケージを変えようとしてみたり、売り方そのものを見直したり・・・、でもなかなか売れない商品を売れる商品に変身させることは出来ないんですよ。そうこうしている内にふと、「売れない商品を売れるようにする努力より、売れる可能性のある商品をもっと売れるようにする努力の方が、話しは簡単なのではないか？」ということに思いついたのです。で、自分でも愛着を感じるし、ぼちぼち売っていた「栗よせ」、「栗きんとん」に目を付けまして、当時はネットなどなかったもので、枠はとっても小さいのに値段は高い新聞広告などを東海地方や関東、関西

中田 専太郎



などに出したりしました。それは結構効果があったみたいで、その頃の窮状を救ってくれました。もっとも我が師匠である父親からは、「おれの目の黒い内は、地方発送なんかには手を出すな！」なんて釘を刺されて、大喧嘩になったりもしましたが。その後も、「売れる饅頭」を何とか創り出そうと悪戦苦闘は続きまして、月に1回、〇〇饅頭特売日というのをこしらえて、黄な粉饅頭、黒糖まんじゅう、コーヒー饅頭、生チョコ饅頭などなど、新しい思い付きで販売するのですが、特売日にはそれなりに売れてもなかなか後の盛り上がりにつながらないのです。これも無駄な努力なのかな。なんて時には自暴自棄になったりもしていました。そして幾年かが過ぎまして、その頃、毎年のようにPTAの依頼で、「和菓子講習会」を開いていたのですが、回を重ねる毎にネタに尽きて来まして、何を題材にしようか大いに悩んでいる時に、苦肉の策で、「いろいろな饅頭を作って楽しもう！」という講習会を行いました。

これは例えば、これまでのプラモデルの部品をつくるのに主眼をおいたものではなく、出来た部品を組み立てて、完成品を楽しむ的なもので、予め、饅頭の生地やら餡は準備しておいて、それを好きなように混ぜたり、合わせたりしながら、自分だけのお饅頭を蒸し上げて味わう、というものだったのですが、これまでに饅頭の種類は散々試し済みでしたので、材料の準備はお手のもの。それを持って行ってみると、大きな調理室は親子で大盛況で、おおざっぱな説明だけして後はグループ別けした調理テーブルで実際に包んでもらったのですが、ふと気が付いてみると、どのテーブルの親子も、とても楽しそうに笑いながら、お饅頭を作っていました。

「これまで沢山のお饅頭を特売という形で販売してきたけど、この盛り上がりは一体なんなんだろう？これを何かで活用することは出来ないものだろうか？」そう考えたのですが、何とも具体的な方策は浮かばないままでした。そして時は経ち、外の用事を済ませて、お店に入ろうとして、ふとお店の横にある路地を見やると、様々な色や模様の野良猫達が遊んでいたのです。それを見た途端に「これは使えるんじゃないか！」と思い立って、あれこれ試作を重ねた後に販売したのが、「招福・猫子まんじゅう」です。お陰様で、こちらのお饅頭は、商標登録も済ませまして、販売し始めてから8年ほどになりますが、お陰様で何とか生き残っております。

出前講座では、「得意分野を伸ばすことはとても大切だけど、不得意なことを克服しようとする努力も決して無駄にはならないよ」と、やや偉そうに生徒さん達に申し上げることで話を終えております。

「職業奉仕とは」

ロータリーはアメリカ、シカゴで誕生しました。32年間の永きにわたって事務総長を務めたチェスレーR・ペリーはポール・ハリスがシカゴロータリークラブを創設した時を振り返って「シカゴロータリークラブは職業人同士が情を深めることと、各々の商売を発展させることの二つの目的のために誕生した。この二つの融和が今日の職業奉仕の萌芽になった」と述懐（じゅっかい）しております。

しかし、この二つを単純に融和させますと「親睦と相互扶助」という単なるエゴの塊のような組織になります。そのようなエゴの塊では、世界に浸透し、120年もの永きにわたって継続できるものではありません。そこで、ロータリーはシェルドンスクールのモットー「**He profits most who serves best 最も多く奉仕する者、最も多く報いられる**」をそのままロータリー奉仕の理念に取り入れたのです。職業奉仕の理念は、お金を儲けたいという職業人の内なるエネルギーと、お客様のお役に立つという外向きのエネルギーとの葛藤を乗り越えた融和が求められるのです。それが、ひいては自分の職業上の利益に還元されてくるという因縁果律、お金儲けの哲学なのです。

シェルドンの職業奉仕の実践倫理は旧約聖書時代のマタイ伝7章12節の「黄金律」**「他人から自分にしてもらいたいと思うような行為を人に対してせよ」**がロータリーの商取引の指針になったと説いています。したがって、「職業奉仕」とは「黄金律」を職業生活において実践する事であります。それは、資本の論理、法の規制に従って正しく職業を営むだけでは不十分で、法よりも高次元にある「黄金律」に従えと言っているわけであります。こう考えていきますと「職業奉仕」とは当に、人間がいかに生きるか、生き様そのもの、人生の根幹にかかわることであります。だから「職業奉仕」をロータリーの運動の根幹と我々は考えているので「職業奉仕」とは5大奉仕を横並びの奉仕にしたものではなく職業奉仕を中心に輪のように広がったものと考えべきだと思います。

RIが世界的な人道団体へと大きく変化して、職業奉仕の精神が失われた今、ロータリーの発展を支えてきた職業奉仕こそ、ロータリーの普遍的な価値観であるということをも日本から世界へ発信すべき時ではないでしょうか。

劔田 廣喜



<1月のお祝い>

<会員誕生日>

渡辺 甚一	S 3 2 年	1 月 1 日
和田 良博	S 2 6 年	1 月 1 1 日
足立 常孝	S 2 7 年	1 月 1 5 日
西倉 良介	S 3 0 年	1 月 1 8 日
周 信夫	S 3 8 年	1 月 2 3 日
高殿 尚	S 3 8 年	1 月 2 3 日
高木 純	S 3 3 年	1 月 3 0 日
都竹 太志	S 4 0 年	1 月 3 0 日
中田 学	S 3 9 年	1 月 3 1 日

<夫人誕生日>

山本 辰男	克子	1 月 2 日
二木 公太郎	奈美	1 月 8 日
清水 幸平	洋子	1 月 1 4 日
高殿 尚	知子	1 月 2 9 日

<結婚記念日>

劔田 廣喜	S 4 9 年	1 月 2 4 日
渡辺 修治	S 5 4 年	1 月 2 6 日



<ニコニコ BOX>

1/14の新年家族例会には、ひだしんの役員新年会と重なり出席できず、会員皆さんへの新春のご挨拶が失礼ながら本日となりました。本年もよろしくお願い致します。 大原 誠

先日の「新年家族例会」では、子供が大変喜んでいました。帰った後も興奮が治まらず「次はいつ？」と聞いていました。ありがとうございました。 二木 公太郎

ソングリーダー頑張ります。前リーダーの長瀬栄二郎さん、長い間お疲れ様でした。 中屋 出

本日より復帰致します。よろしくお願い致します。クラブよりお見舞いを頂きました。お心遣いありがとうございました。高橋 厚生

新春ゴルフの会に参加された方々、お疲れ様でした。会計で残金が出ましたので幹事権限でニコニコに出させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。 岩本 正樹

本日、お陰様で還暦を迎えました。土曜日は前夜祭を朝日街のおねえちゃんに祝って頂き散財してしまいました。本日が本番ですので勇者の皆様、最後までお付き合い下さい。 周 信夫